

問1 聖徳太子によって建立され、世界最古の木造建築物群として飛鳥文化を象徴する寺院を何という？

1. 東大寺 2. 法隆寺 3. 四天王寺 4. 中尊寺

問2 663年に日本軍が朝鮮半島で唐・新羅の連合軍と戦い、大敗した戦いを何という？

1. 川中島の戦い 2. 壇ノ浦の戦い 3. 壬申の乱 4. 白村江の戦い

問3 聖徳太子や蘇我氏を中心となって栄えた、日本で最初の本格的な仏教に基づく文化を何という？

1. 仏教文化 2. 天平文化 3. 鎌倉文化 4. 国風文化

問4 十七条憲法において、政治の指針として取り入れられた、インドで生まれ朝鮮半島を経由して伝わった宗教は何？

1. 道教 2. 儒教 3. 仏教 4. 神道

問5 唐や新羅からの侵攻に備えて、九州北部の防衛のために配置された兵士を何という？

1. 租庸調 2. 防人 3. 庚午年籍 4. 班田収授法

問6 聖徳太子が、中国の隋から進んだ政治制度や文化を学ばせるために派遣した人物は誰？

1. 阿倍仲麻呂 2. 吉備真備 3. 小野妹子 4. 菅原道真

問7 聖徳太子が役人の心得として、仏教の「仏・法・僧」を敬うことを記した文書を何という？

1. 十七条の憲法 2. 冠位十二階 3. 大宝律令 4. 大化改新の詔

問8 奈良県の法隆寺などが該当する、飛鳥時代に日本で発展した現存する最古のものは何？

1. 鉄筋コンクリート建築物 2. 石造建築物 3. レンガ造建築物 4. 木造建築物

問9 白村江の戦いのあと、九州の防衛や外交の拠点として置かれた役所を何という？

1. 平城京 2. 大宰府 3. 平泉 4. 平安京

問10 豪族中心の政治から脱却し、天皇が権力を集中させる国家体制を何という？

1. 中央集権 2. 氏姓制度 3. 封建制度 4. 地方分権

問11 推古天皇の時代、中国へ進んだ制度や文化を学ぶために派遣された使節を何という？

1. 遣明使 2. 勘合貿易 3. 遣隋使 4. 遣唐使

問12 推古天皇が才能や功績によって役人を登用するために定めた制度を何という？

1. 大宝律令 2. 十七条の憲法 3. 班田収授法 4. 冠位十二階

問13 中大兄皇子らが中心となり、豪族が支配する政治を改め、天皇中心の国家を目指した政治改革を何という？

1. 応仁の乱 2. 大化の改新 3. 承久の乱 4. 壬申の乱

問14 飛鳥時代、仏教の採用をめぐって蘇我氏と激しく対立した有力豪族を何という？

1. 大伴氏 2. 蘇我氏 3. 物部氏 4. 中臣氏

問15 日本が隋や唐の国家体制を手本にして、後に整えていった法典に基づく統治のしくみを何という？

1. 律令制度 2. 大化の改新 3. 班田収授法 4. 封建制度

問16 中大兄皇子とともに飛鳥時代に権力を握り、天皇中心の政治の実現を阻んでいた豪族を何という？

1. 藤原氏 2. 源氏 3. 平氏 4. 蘇我氏

答え合わせ・解説

問1	答え 2 法隆寺	法隆寺は、聖徳太子によって建立された日本最古級の寺院です。現存する金堂や五重塔などの建物は、世界で最も古い木造建築物群としてユネスコの世界文化遺産にも登録されています。当時の建築技術や仏教美術の粋を伝えており、飛鳥時代の高度な国際交流の様子を現代に伝えています。
問2	答え 4 白村江の戦い	日本は百済を助けるために軍を派遣しましたが、白村江（はくすきのえ）という場所で唐・新羅軍に完敗しました。この敗戦により、日本は朝鮮半島での影響力を失い、次に唐が日本へ攻めてくることを恐れるようになりました。
問3	答え 1 仏教文化	仏教文化は、聖徳太子や蘇我氏ら有力豪族によって深く信仰され、寺院の建立が活発になりました。中国の南北朝時代や朝鮮半島の文化の影響を強く受けており、大陸風の優美な建築や彫刻が特徴です。法隆寺などの寺院が代表的です。
問4	答え 3 仏教	仏教は神道と共存しながら急速に広まり、特に聖徳太子がその普及に努めました。法隆寺などの寺院が建立され、仏像や彫刻などの仏教芸術も発展しました。十七条憲法でも、仏教を篤く敬うことが説かれています。
問5	答え 2 防人	政府は国防を最優先の課題とし、九州の北部に「防人」を配置して警備を強化しました。また、九州各地や瀬戸内海沿岸には水城や山城を築き、万が一の侵攻に備える軍事施設を整えました。これらの防人は、東国などから選ばれた農民が任期を終えて交代で任務にあたるものでした。
問6	答え 3 小野妹子	小野妹子は、聖徳太子の命令を受けて遣隋使として隋の都へ派遣されました。当時の隋の皇帝である煬帝に、天皇の親書（「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す」で始まるもの）を手渡し、対等な関係を要求しました。彼はこの命がけの外交を通じ、大陸の優れた文化や法律制度を日本へ持ち帰りました。
問7	答え 1 十七条の憲法	604年に制定されました。役人が守るべき心構えを全17条で記しており、その第2条には「三宝（仏・法・僧）を敬うこと」が説かれています。儒教的な考え方や仏教の教えに基づき、和を大切にすることなどを強調しました。
問8	答え 4 木造建築物	法隆寺の金堂や五重塔などの西院伽藍は、現存する世界最古の木造建築物です。当時の優れた技術を示しており、エンタシス（柱の中央が膨らむ技法）などの特徴が見られます。
問9	答え 2 大宰府	大宰府は、九州地方（特に博多周辺）を管轄する行政機関です。軍事防衛だけでなく、外国との外交交渉を行う窓口としての役割も持ちました。周囲には「水城」という土木施設を築き、守りを固めたとされています。
問10	答え 1 中央集権	飛鳥時代から大化の改新を経て目指されたのが「中央集権」です。地方の豪族から土地や民を公のものとする「公地公民」を掲げ、中央政府が全国を一括して管理するシステムを構築しました。
問11	答え 3 遣隋使	607年に小野妹子らが派遣されました。彼らは隋の皇帝に国書を届けて対等な外交関係を求めるとともに、仏教の教義や政治の仕組みを学び帰国しました。これにより日本には大陸の新しい文化が急速に流入しました。
問12	答え 4 冠位十二階	603年に制定されました。役人に位を表す冠を与え、その色は徳・仁・礼・信・義・智の儒教的な道徳に基づく階層を示しました。これにより、有力豪族だけでなく、能力のある人物を政治に参加させる道が開かれました。
問13	答え 2 大化の改新	645年、中大兄皇子や中臣鎌足らは、強大な権力を持っていた蘇我入鹿を倒し、天皇中心の国づくりを目指す「大化の改新」を開始しました。彼らは「公地公民」を掲げ、土地や民を豪族の手から国家の管理下に移しました。また、税制の整備や中央集権的な統治を目指す制度の導入を行いました。
問14	答え 3 物部氏	物部氏は日本古来の信仰を守る立場から、蘇我氏が推し進める仏教の導入に強く反対しました。両者は政治的、宗教的に激しく対立しましたが、最終的に蘇我氏が勝利したことで、日本における仏教の公認が決定しました。
問15	答え 1 律令制度	律令制度とは、刑罰を定めた「律」と、行政や税の決まりである「令」からなる法体系のことです。飛鳥時代の聖徳太子の時代から準備が始まり、大陸の制度を参考にしながら、天皇を頂点とした官僚的な政治システムを構築しました。これにより全国の土地や人々を直接管理することが可能となりました。
問16	答え 4 蘇我氏	蘇我氏は飛鳥文化の中心的な存在でもあり、聖徳太子と協力して国の基盤を固めました。しかし、独裁的な権力を振るったことで他の豪族や天皇家との対立を深め、最終的には不満を持つ中大兄皇子や中臣鎌足らによって倒されることとなりました。